

2023年6月15日

報道関係各位

バイク未来総研

<https://www.8190.jp/bikelifelab/notes/bikefuture/>

## <バイク王調査レポート> 【2023年】コロナ禍でなぜ中古バイク価格が高騰？ その理由と今後の市場動向に切り込む！③

バイク業界のよりよい未来を考え、新しい価値を調査し、分析した内容を広く社会に発信することを目的に活動を行うバイク未来総研(所在地:東京都港区、運営:Bike Life Lab supported by バイク王)は、中古バイクの価格高騰について独自考察を交えたレポートを同オウンドメディア内にて公開いたしました。

2020年から続く新型コロナウイルスの蔓延、それに伴うバイク部品や半導体不足・物流の混乱・生産遅延など断続的に発生したものの、国内の新車出荷台数は上昇の傾向を見せました。2023年はコロナ需要により大きな盛り上がりを見せた2022年と比較すると前年比で軽二輪(126~250cc)、小型二輪(251cc以上)などの排気量がマイナスとなっており、全体としては落ち着きを見せています。



バイク未来総研では、中古バイクにまつわるデータや当時の社会情勢から読み解き、第一回調査レポートでは、過去10年間のオークション相場から見る中古バイク価格について考察しました。

第二回調査レポートでは、注目される6車種に絞り過去3年間の中古オークション相場から見る需要の変化について考察しました。

最終回となる今回は、新型コロナウイルスへの対応や意識が変化し続ける状況を加味した上で最新2023年のデータまで読み解き、今後の中古バイク市場動向を考察していきます。

※本リリースの調査結果を転載される際は、必ず「バイク未来総研調べ(<https://www.8190.jp/bikelifelab/notes/bikefuture/20230615/>)」とご明記ください。

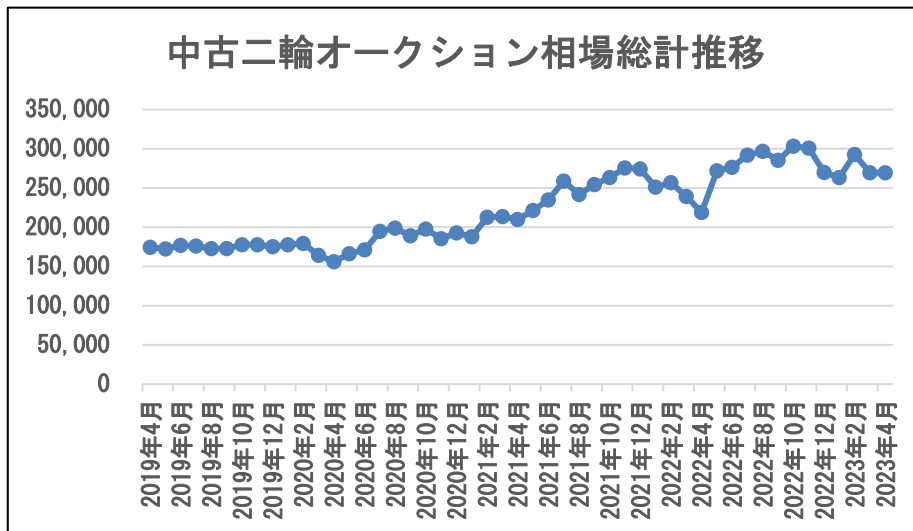
※本リリースに関する画像が必要な際は下記連絡先までご一報ください。

プレスリリースに関するお問い合わせ先  
株式会社バイク王&カンパニーバイク未来総研  
東京都港区海岸3-9-15 LOOP-X 13F  
広報PRチーム 担当:佐々木、赤松  
TEL:03-6803-8855 E-mail:prir@8190.co.jp

## ■コロナ環境が変化する中、バイクの相場状況に変化はあった？

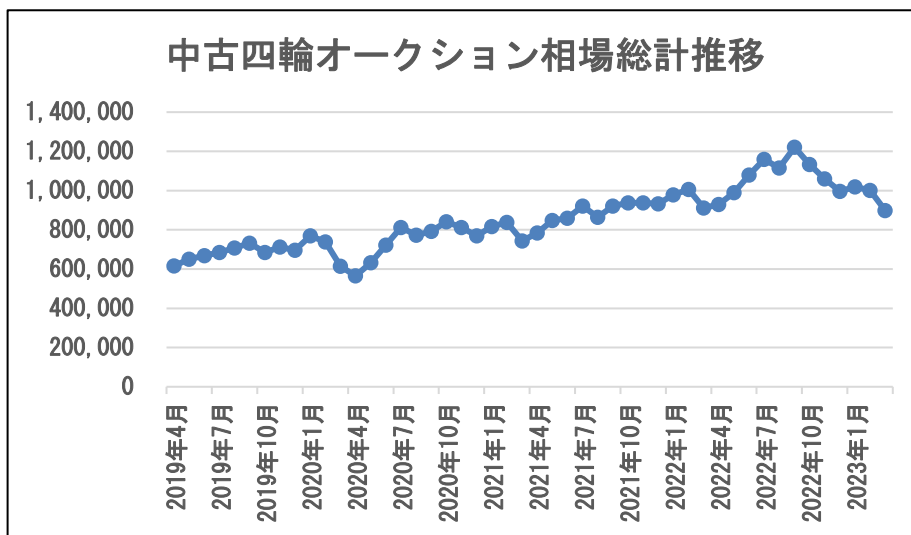
第一回の調査レポートでは、2022年5月までの中古二輪オークション相場の掲載と考察を行いました。今回は2023年4月までのデータまで伸ばしその推移を見ることにしました。

以下は国内の中古バイク、すべての排気量を合計したオークション相場です。（中古車データグラフは年間10万台以上の買取台数を誇るバイク王独自データ集計により作成）



※バイク王調べ

2020年の平均価格が181,187円に対し、2021年の平均価格は237,352円と、平均価格は56,165円上昇。2022年に入り、ウクライナ侵攻による先行き不安に見舞われた時期の3月には平均価格は下落、落ち込んだオークション相場は同年5月には盛り返し、秋の行楽シーズンとなる2022年10月には過去最高となる303,226円を記録しました。その後、冬の需要低下の時期には一旦落ち着くものの、2月より再び回復の兆しを見せています。また、1年間の平均価格で見ると、2021年は237,352円で2022年は271,822円と前年と比較し34,470円の上昇を見せています。

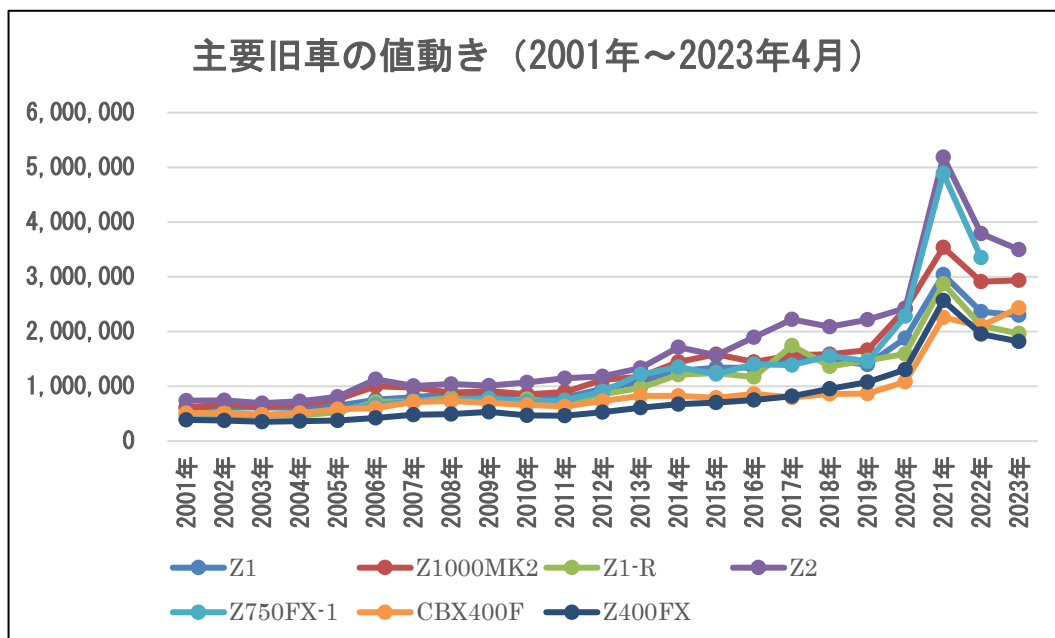


※(株)ユー・エス・エス開示情報

上記は中古4輪オークション相場の推移です。2022年9月の1,221,000円をピークに、2023年3月の898,000円まで30万円以上の振り幅を見せています。中古2輪市場は4輪ほど大きな振り幅はなく年間をならして見ると緩やかな上昇線を見せているため、2輪市場特有の市場推移であり、堅調な推移であると見てとれます。

### ■主要な旧車・絶版車の値動きの歴史

全体の値動きでは緩やかな上昇の動きを見せていましたが、中古車で人気の高い旧車・絶版車の値動きはどうなっているのでしょうか。主要な車種7車種の値動きを見て考察していきます。



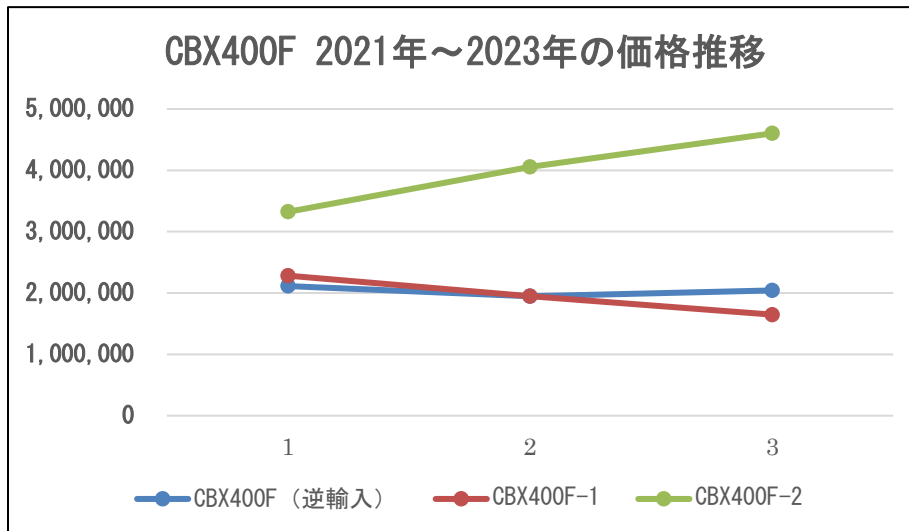
※バイク王調べ

2005年頃から緩やかに旧車の価格上昇が始まり、2013年から2014年頃にさらに一段価格が上昇。2019年からコロナ需要を背景に価格の上昇が加速し、2021年には急激な価格高騰の波が訪れています。2020年は「おうち時間」など外出せずに家で楽しむことを意味するワードが流行し、家で楽しむ趣味などやソロキャンプなども注目を集めました。翌年の2021年は経済面の問題から「外に出る」動き・手段を模索する年となりましたが、依然としてコロナウイルスに対する社会的圧力が強まる中、外出する手段として「ソーシャルディスタンスを保つことができる移動手段」として一躍バイクが注目を浴びたのも2021年頃です。そうした社会背景と新車供給不足が重なったことで中古バイクへの需要が急速に高まり、2021年の中古車市場全体が相場上昇となりましたが、人気の旧車についてはさらに極端な高騰が見られました。2022年に落ち着きを見せた値動きは、2023年から新たな動向を示していますが、急激な高騰前の2020年よりも高い水準を維持しており、2001年からの全体の相場状況としては現在まで上昇を続けていると言える推移となっています。

2022年から2023年にかけては、需要の高い車種は再び値上がりし、そうではない車種は低下する動きを見せました。ひとつの例として『CBX400F』のデータから今後の値動きについて考察していきます。

## ■CBX400Fの内訳から見る考察

下記のグラフはCBX400Fの2021年から2023年までの価格推移です。



※バイク王調べ

同じCBX400Fでも、流通台数が少なく希少価値の高いCBX400F II型は2023年に入りさらに値を上げ、450万円超となっており、一方で逆輸入車は横ばいの200万円程度、I型は2021年から60万円以上値下がりし、164万円程度となっています。

値が上がらない逆輸入車とI型の共通点としては、流通台数が比較的多いことが挙げられます。また流通台数が多いことでレストアを要する状態の悪い車両も割合として増え、平均価格を引き下げる要因にもなり、同じ逆車・I型の中でも状態による価格差が広がっています。2021年の「旧車であれば良し悪しに関わらず高騰する」という状況から、状態が悪い車両は需要低下に伴い価格が低下し、一方で希少価値が高く状態の良い車体は価格上昇を続ける、いわば「二極化」が進むことが考えられます。

今後はしっかりと整備・レストアされた車両はさらに価値を高め、そうではない車両との価値・価格の差がさらに大きくなっていくと予想されます。

## ■バイク未来総研所長

宮城光のココがポイント

2023年4月までの各種データからは、2021年には世相と相まって旧車価格が爆発的に上がったものの、今後は状態の良くないバイクはそれなりの取引がされ、状態の良いバイクはさらに引き合いが強まる時代となっていくように見てとれます。新車供給の動向や今後の世界情勢にもよりますが、コロナウイルスも5類となり、様々な行動制限が解除された現状においては、中古バイクの需要は一定数見込めるため、中古バイクの価格は2022年と同水準か、そこから緩やかに上昇していくのではと予想します。コロナ禍によりバイクの価値が見直され、ソロキャンプのように需要が定着し、状態の良いバイクが多く流通するようになるのであれば業界全体の活性化にもつながりますので、バイク業界に身を置く身として大変喜ばしいことと感じます。今後の推移を見守っていきたいと思います。